

2022年11月11日

各 位

会 社 名 株式会社ACSL
 代表者名 代表取締役社長 鷲谷 聡之
 (コード番号: 6232 グロース)
 問合せ先 取締役CFO 早川 研介
 (TEL. 03-6456-0931)

2022年12月期 連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年2月14日に公表いたしました2022年12月期（通期）の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2022年12月期（通期）の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,500	△650 ～△350	△650 ～△350	△650 ～△350	△52.77 ～△28.41
今回修正予想（B）	1,650	△2,200	△2,150	△2,150	△174.01
増減額（B－A）	△850	△1,850 ～△1,550	△1,800 ～△1,500	△1,800 ～△1,500	—
増減率（%）	△34.0	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （2021年12月期）	501	△1,188	△1,213	△1,225	△103.94

（注）当社の決算期変更の経過期間となる2021年12月期は、2021年4月1日から2021年12月31日までの9ヶ月決算となります。

2. 連結業績予想修正の理由

当第3四半期連結累計期間の業績は、2022年3月より出荷を開始した小型空撮ドローン（SOTEN）の販売等により、当第3四半累計期間の売上高1,161百万円は同累計期間としては過去最高となりました。加えて、当第3四半期末時点において727百万円の受注残高があり、通期における売上高と受

注残高の合計としては過去最高となる見込みです。また、当社が2022年1月28日に公表した中期経営方針「ACSL Accelerate FY22」の事業戦略の一つとして「インド市場の本格的な立ち上げ」を掲げている中で、Aerodyne Indiaより8千万ルピー（約1.4億円）の注文を受注するなど海外事業についても順調に拡大を進めております。

その一方で、世界的な半導体不足及び直近の円安・ドル高に起因する、電子部品等の価格高騰及び部品納期の長期化が想定以上に拡大した影響を受け、当社としても製品納期を変更することを決定したことにより、受注及び売上高の計上時期が遅延しており、売上高の減少要因となっております。利益面においては、売上高の減少の他、電子部品等の高騰により売上総利益が悪化する見込みです。また、海外市場における需要が想定以上に見込まれることから、海外展開の加速に向けた海外市場に対応した製品開発などの先行的な開発投資を実施することを決定したことに伴い、研究開発費の予想額が11億円以上となる見込みです。このような状況を現時点で可能な範囲で織り込んだ結果、当期の連結業績予想は売上高及び利益において前回公表値を下回る見込みです。

なお、ドローン市場を取り巻く事業環境は、経済安全保障への関心の高まり、ドローンに関する法整備が進むなど大きく変化しており、今後も当社の小型空撮ドローンSOTENを中心に国産ドローンに対する需要は堅調に推移すると予測しております。

業績予想に関する詳細につきましては、同日開示しております、四半期決算補足説明資料「2022年12月期第3四半期 決算説明資料」36～37ページ及び48ページをご覧ください。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、当社としてその達成を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上